

資料1

平成26年度

商工観光部各課所管の中小企業振興関連施策について

(1) 平成 26 年度商工観光部各課所管の中小企業振興関連施策について

(1)商工企画課

平成 26 年度の主な事業

中小企業振興推進事業

- ・地域経済の健全な発展と市民生活の向上のため、地域経済と雇用の主要な担い手である中小企業者への認識を市民・中小企業者・行政が共有するためセミナーを実施する。

また、当審議会において各種中小企業振興策をご審議いただくほか、第 2 次北見市産業振興ビジョンの進行管理を行う。

融資制度預託金

- ・中小企業の事業運営の基礎となる金融の円滑化、正常化を図り、その育成振興と経営安定に寄与するため、北見市中小企業融資制度による 11 種類の融資を行っており、資金運用原資として、市内取り扱い金融機関に預託している。

< 利用状況 >

・新規貸付件数	23 年度	162 件	2,017,040 千円
	24 年度	194 件	2,166,450 千円
	25 年度	126 件	1,782,440 千円
・既貸付残件数	23 年度	590 件	5,540,989 千円
	24 年度	617 件	5,690,635 千円
	25 年度	568 件	5,409,318 千円

融資信用保証料補給金

- ・経営安定革新資金及び緊急小口資金の借受者が、保証協会の保証付とした場合に保証料の一部補給を行う。

平成 20 年 12 月より経済対策として条件を緩和し、中小企業に対する支援を行っており、厳しい経済環境が継続しているとの判断から期間の延長を行っている。(平成 26 年 3 月 31 日までの時限的措置)

・補給実績	23 年度	37 件	5,693,260 円
	24 年度	46 件	6,340,483 円
	25 年度	28 件	3,141,936 円

地域商店街振興対策事業

- ・商店街振興組合等が地域の賑わいを創出し、より魅力ある商店街づくりを目的として行うイベントや、活性化アドバイザーの招聘等に対し補助する。

北見市工業技術センター運営管理

- ・木工、機械、金属等の地場企業に対する技術指導、研究開発等を推進し、工業振興を推進することを目的に昭和 57 年に市が設置した施設。

平成 16 年度より指定管理制度により一般社団法人北見工業技術センター運営協会により運営。

平成 26 年度の主な予算計上項目

事業名	金額（単位：千円）
中小企業振興推進事業費	1,236
融資制度預託金	2,618,203
融資信用保証料補給	6,240
地域商店街振興対策事業補助金	1,660
北見市工業技術センター運営管理費	53,350

所管施設

北見市工業技術センター（指定管理者：（一社）北見工業技術センター運営協会）

関係イベント

オホーツク「木」のフェスティバル（開催期間 H26年5月16～18日）
各商店街活性化イベント

(2)産業立地労政課

平成 26 年度の主な事業

北見地域企業立地促進協議会

地域経済に高い波及効果をもたらす企業立地を積極的に促進し、活性化を図るため、企業立地に関する調査、研究及び情報の収集

会 長 : 北見工大社会連携推進センター長

副会長 : 北見商工会議所専務理事

構成団体: 大学・公設試験研究機関・民間企業等 15 団体

企業訪問活動等

首都圏等の企業訪問予定件数 100 件(立地企業本社、その他企業など)

- ・現在訪問企業の IT 関連会社数社と北見進出について継続的に接触中
北見工大生の来年度採用について複数名内定している。

工業団地・ハイテクパーク

ハイテクパーク立地促進補助金を活用し、積極的な誘致活動を展開している

- ・分譲率: 工業団地 98.6%、95 社
ハイテクパーク 41.0%、3 社、3 公的支援機関

北見地域季節労働者通年雇用促進協議会

国が季節労働者の通年雇用の促進に自発的に取組む地域の関係団体から構成される協議会が策定した、雇用対策計画の中から通年雇用効果の高いものを選定し、協議会に事業を委託。

- ・会 長 : 北見市商工観光部長
- ・構成団体: 自治体オホーツク総合振興局、北見市、訓子府町、置戸町
関係団体.....北見商工会議所、留辺蘂商工会議所、きたみ市商工会、北見建設業協会など 14 団体

雇用就業推進事業

- ・「ジョブサポートきたみ」の運営

求人情報の提供、就職・就業への支援、相談員による就職相談

利用状況 5,848 人(H25年度)

併設機関

北海道 H16 ジョブカフェ北見(北海道若年者就職支援センター)

若年者(39歳以下を対象)

就職に向けたカウンセリング、セミナー、
就業支援システム 等

H24 ジョブサロン北見(北海道中高年者就職支援センター)

中高年者(概ね35歳以上を対象)

適職診断、カウンセリング 等

国 H25 ハローワークきたみ(北見公共職業安定所)

求職者に対する相談・指導、職業紹介

雇用交付金事業 新規事業

・緊急雇用創出推進事業

事業名	金額(円)	新規雇用者数
若年者雇用促進事業	6,000,000	2
1事業	6,000,000	2

北見市雇用創造協議会 新規事業

国が雇用機会が不足している地域において、市町村や地域の経済団体等から構成される協議会が提案した雇用対策に係る事業構想の中から雇用創造効果が高いと認められるものや地域の雇用機会を増大させる効果が見込まれると認められるものを選定し、協議会に事業を委託。

- ・会長：北見商工会議所副会頭
- ・構成団体：オホーツク総合振興局、北見市、北見商工会議所、北見工業大学オホーツク産学官融合センター、中小企業基盤整備機構北海道本部、(公財)オホーツク地域振興機構、(一社)北見工業技術センター運営協議会、北見市観光協会連絡協議会
- ・受託事業：実践型地域雇用創造事業

【基本メニュー】

雇用拡大メニュー（事業主向けセミナー）

人材育成メニュー（求職者向けセミナー）

就職促進メニュー（就職面接会、就業促進情報提供事業）

3年間で174人の就業者を目標

【実践メニュー】

地場産品を活用した新商品開発事業

新観光プログラム開発事業

食関連産業、観光関連産業の活性化を図り波及的に雇用を拡大する。

技能・ものづくり体験事業 新規事業

技能・ものづくり離れを解消するために、技能・ものづくり体験を通じて、技能の振興を図る。

- ・ものづくり体験事業
浴衣和裁講座、ものづくり体験教室
- ・技能普及啓発事業
地域の食材を活用した新商品の開発や技術普及の講習会開催

平成 26 年度の主な予算計上項目

事業名	金額（単位：千円）
技能・ものづくり体験事業	2,849
企業立地補助金	10,000
ハイテクパーク立地促進補助金	10,000
通信費低減化支援補助金	2,000
輸送費低減化支援補助金	2,000

所管施設

- ・北見市働く婦人の家（北見市女性センター）
- ・北見勤労者総合福祉センター（サントライ北見）
- ・北見中高年齢労働者福祉センター（サンライフ北見）
- ・北見地域職業訓練センター

(3)産業連携推進課

平成 26 年度の主な事業

産学官連携の推進

推進組織：北見市産学官連携推進協議会

(会 長：北見工業大学理事・副学長 事務局：北見市、北見工業大学)

平成 16 年 5 月に設立し、市内 14 団体が加盟。産学官交流促進を目的としたビジネスセミナーや起業家育成支援セミナーなどを開催。さらに、北見工業大学の知見を活用し、地元事業者との共同研究開発事業を積極的に推進している。

オホーツク産学官融合センター

地元の中小企業者を対象とした「地域の研究開発から事業化までを支援するワンストップサービス拠点」であるオホーツク産学官融合センター（運営主体：北見商工会議所）中小企業基盤整備機構北海道本部北見オフィスと連携し、地元企業への支援体制を構築している。（運営費補助金）

大学・公設試験研究機関との共同研究開発委託事業

大学及び公設試験研究機関と地元企業との共同研究開発を支援する。

（平成 17 年度から平成 25 年度までの累計 51 件）

連携構築補助事業

他の企業と連携し、新商品開発や販路開拓を目指す地元企業の取り組みを支援する。（平成 19 年度から平成 25 年度の累計 47 件）

北見市の魅力発信事業

北見市の魅力を効果的に発信できるよう、専門家を招き情報発信に必要な魅力的な画像を作成する技術を学び、市のホームページや facebook などにより魅力的な映像を掲載できることを目指す。

地域資源活用の推進（高付加価値化・販路開拓）

推進組織：北見市地場産品高付加価値化推進委員会

(委員長：北見商工会議所中小企業委員長 事務局：北見市)

平成 17 年 7 月設立、農協、漁協、商工会議所、行政機関等で構成。当地域の豊富な農林水産資源を活用した加工製品の開発、及び大都市圏等への地場産品の販路拡大等の取り組みを支援する。

オホーツク圏地域食品加工技術センター

地域のニーズ対応した食品加工に関する試験研究、技術指導等を行う道立オホーツク圏地域食品加工技術センター（運営主体：(公財)オホーツク地域振興機構）と連携し、食品加工関連産業の振興と 1.5 次産業、6 次産業の推進を図る。（運営費補助金）

新商品開発事業

道内屈指の品質と収穫量を誇るオホーツク産小麦の利用拡大、ブランド化を目指し、地場産小麦を使った商品（菓子・パン・麺など）を開発し、市内商

業施設に設けるアンテナショップにおいてPRする。

販路開拓事業

首都圏で開催される大規模商談会(スーパーマーケットトレードショー、インフォメーションバザール、フーデックスジャパン)への出展支援のほか、効果的な商談会出展を目的とした事前セミナー事業を実施する。

道内10都市の連携事業「卸売キャラバン隊商談会in北見」に参画し、地場商品の販路拡大を図る。

新エネルギー推進事業

推進組織：オホーツク新エネルギー開発推進機構

(会長：北見工業大学理事・副学長 事務局：北見市)

平成14年5月設立、市内の大学、エネルギー関係機関で構成。平成24年度に策定した「北見市新エネルギー・省エネルギービジョン」に掲げる基本理念と推進プランの実現に向け、新エネルギーの普及・啓発事業を実施するとともに、産学官による共同研究を推進する。

地域の特性に合ったソーラーエネルギーをはじめとする新エネルギーの活用について北見工大との共同研究を推進するとともに、クリーンエネルギーに関する普及啓発イベントを実施。

住宅用太陽光発電システム導入費補助金

平成14年度より実施。平成25年度までの実績 850件

平成26年度(予算) 補助件数 250件 補助額 60,000円/件

新エネルギー調査研究・関連研究団体等への支援

「ホタテの貝殻を活用した両面太陽光発電システム実証実験」

北見工業大学、ハイテクパークで実施

再生可能エネルギー発電施設の設置推進

メガソーラー等、再生可能エネルギーによる発電施設建設に対する支援策を制度化。当該施設に賦課される固定資産税(償却資産)額の1/4相当額を補助金として最大3ヵ年交付(平成25年度中に稼働開始の施設に限る)

関連施設(運営費補助)

道立オホーツク圏地域食品加工技術センター

(指定管理者:(公財)オホーツク地域振興機構)

関係イベント

起業家育成支援セミナー(北見市産学官連携推進協議会)

ソーラークリエイティブin北見(オホーツク新エネルギー開発推進機構)

平成 26 年度の主な予算計上項目

(千円)

産業クラスター推進費	14,150
北見市産学官連携推進協議会負担金	1,500
大学及び公設試験研究機関共同研究開発委託	3,000
連携構築支援補助金	2,500
オホーツク産学官融合センター経費	5,800
北見工業大学社会連携推進センター推進協議会負担金	1,350
オホーツク圏地域食品加工技術センター運営費補助金	26,834
地場産業振興費	4,000
地場産品高付加価値化推進委員会負担金	4,000
新エネルギー推進費	24,400
オホーツク新エネルギー開発推進機構負担金	3,400
住宅用太陽光発電システム導入費補助金	15,000
再生可能エネルギー活用推進事業費	6,000

(4) 観光振興室

平成 26 年度の組織体制

合併以降、観光振興室を設置し、観光プロジェクト事業を 3 年ローリングで事業の見直しを図ってきた。

新たに 25 年度より、第三次のプロジェクトに取り組んでおり、これまでの課題の解決と、一層の効果を目指し、第三次のプロジェクトのメインとなる柱を北見市のシティプロモーションと位置づけた。

さらに、これまで旧観光振興係において観光事業と宣伝告知活動の推進を行っていましたが、新年度より組織体制の見直しを図り、効率的な観光行政をすすめるためプロモーション係を新設した。

観光振興室長	1 名
観光振興課長	1 名
観光物産担当係（新）	4 名（旧、観光振興係）
プロモーション係（新）	2 名（旧、物産コンベンション係）
計	8 名

このほか、端野産業課長・留辺蘂産業課長・常呂産業課長・常呂総合支所主幹が、「観光振興室主幹」を兼務発令。

平成 26 年度の主な事業

第三次・新北見型観光推進プロジェクト（平成 25～27）

プロモーション関係

北見市全体の PR 「シティプロモーション（セールス）」に観光関係団体とともに取り組み、各種プロモーション活動・外客誘致・受入れ体制の充実を図っている。

- ・ 山の水族館来場者の市内滞在時間の延長と市内への誘客をめざし、4 月 29 日より道の駅に観光案内所を開設。
- ・ 旅行商談会への参加として、4 月にひがし北海道（東京・札幌）今後、札幌や東京を予定。
- ・ タイ王国メディア及び旅行会社の招聘事業を行うとともに、年明けにタイ国への臨時チャーター便の就航に取り組む。
- ・ 観光庁との連携として、外国人向け消費税免税制度に関する情報収集や、関連施設への情報提供をすすめる。
- ・ 札幌市など道内中核都市との連携事業として、6 都市スタンプラリー「とく旅」を年内実施し、道内客の周遊を促進する。
- ・ 大雪国道を通じた上川町との事業では、層雲峡温泉などとの相互誘客を目指し、道央圏において PR 活動をすすめる。
- ・ 管内での連携として、オホーツク総合振興局主催のオホ・キャラ隊へ参加し、オホーツクの PR をすすめる。
- ・ 観光協会や自治区と連携し、外国語対応パンフの改正や、案内看板の設置をすすめる。
- ・ 着地型観光情報の発信として、るるぶ Free のパーキングエリアな

どでの配布や、女満別空港での北見景観映像の上映。

- ・アドヴィクスカーリングホールは、スポーツ施設として市内小中学校の利用を伸ばし底辺の拡大を図るのはもとより、体験型観光素材としても魅力があり、夏季はオフシーズンとなることから、修学旅行や社員旅行として旅行商談会やふるさと会に対しPRを行う。

コンベンション関係

各種学会・イベントの誘致活動として、北海道コンベンション誘致推進協議会などと連携し、各種団体や大学関係への誘致活動を実施、本年開催の主な大会としては、日本成長学会並びに社会連携推進センター長会議などが開催されます。

観光関係

- ・北見菊まつりなど三大祭りやファミリーランド等の運営と、ぼんちまつりなどへの事業補助を行う。
- ・北見観光大使の任命や、観光大使やふるさと会への情報提供並びに情報交換を行う。
- ・北見工業大学や山の水族館施設管理者などと共に、山の水族館の凍る滝装置について共同研究しており、年明けに試運転のスケジュールとなっている。

物産関係

市内企業の百貨店への出店サポート

道外の主要百貨店で開催される「北海道観光物産展」(北海道などが主催)などでの地場企業出店のサポート、北見のPRを実施している。

- ・道外の主要百貨店で開催される北海道等主催の「北海道の観光と物産展」は全国で35会場、その内北見市の主催会場として東武池袋百貨店や山形屋百貨店など20会場を選定し、地場企業から出店している企業のサポート及び北見のPRを行うべく、観光パンフやポスターの提供をする。
- ・道外百貨店が北見デーを設け、独自に北見市をPRいただける場合、人的派遣や来場者記念などの特産品の提供をする。
- ・北見独自の物産展として、菊まつり会場にてきたみ物産まつりや、物産においても姉妹都市連携している高知市においてオホーツク北見フェアを開催する。

平成 26 年度の主な予算計上項目

自治区	名 称	金額(千円)
北 見	新北見型観光推進プロジェクト	31,000
	観光案内所委託料(北見駅・温根湯)	4,897
端 野	グリーンクアパーク運営管理費	32,414
常 呂	森林公園運営管理費	13,164
	サロマ湖ワッカネイチャーセンター費	14,903
留辺蘂	道の駅おんねゆ温泉運営管理費	38,899
	山の水族館整備事業費	5,000

主な所管施設

自治区	名 称	備 考
北 見	北見ファミリーランド	
	北見市自然休養村センター	
	北見市菊花栽培センター	
端 野	グリーンクアパーク	のんたの湯、パークゴルフ場
	物産センター	端野駅
常 呂	常呂町森林公園	パークゴルフ・記念塔
	常呂常南ビーチ	
	手工芸の館	
	ワッカネイチャーセンター	サロマ湖
留辺蘂	道の駅おんねゆ温泉	山の水族館
	滝の湯ふれあいの里	

「道の駅おんねゆ温泉観光案内所」の開設状況について

- 1 名 称 道の駅おんねゆ温泉観光案内所
- 2 住 所 北見市留辺蘂町松山1番地4(道の駅おんねゆ温泉クリーンプラザ内)
- 3 開設期間 平成26年4月29日(火)～10月13(月・祝)
- 4 開設時間 午前10時～午後4時
- 5 設置主体 北見市
- 6 設置目的 留辺蘂自治区をはじめ、北見、端野、常呂など地域の食や観光情報を提供し、観光客の滞在時間の拡大とともに、北見市並びにオホーツクエリア、道東地域への誘客を促進する。
- 7 活動内容 市内及び道東地域の観光パンフレット等の配備
市内の飲食店及び観光施設、宿泊施設、イベント、交通情報の案内
オホーツクエリアの観光協会及び観光案内所との連携等による広域観光案内

8 実施方法

(1) 運営体制

運営管理については、北見市商工観光部観光振興室（以下、観光振興室）が所管し、案内所の業務を、北見市観光協会連絡協議会に委託する。

(2) 窓口体制

- ・繁忙期（金・土・日曜日、祝日等）：2名
- ・通常期（月～木曜日）：1名

(3) 協力体制

- ・観光案内に必要な情報の提供や繁忙期の応援のほか、案内所職員の研修については、各自治区の観光協会及び地元旅館組合の協力を得る。
- ・来所者のけがや病気など緊急時の他、相談等が対応困難な場合については、地元観光協会、旅館組合の協力を得る。

9 利用者数

4月は2日間開設し、案内件数は70件であることから、1日平均35件、5月は31日間開設し、案内件数は1,678件であることから、1日平均54.1件/日となっている。

主な案内事項としては、イベント・観光施設・飲食店やパンフレット配布、スタンプラリーなどであり、来所者の傾向として平日はシニア層の男女と、週末はファミリー層となっている。

10 ワイファイ環境等

観光客が自由に観光情報を入手できるようタブレットを設置した。

まお、案内所に無料Wi-Fi環境を整備し、観光客が自らのスマホなどで高速で情報を入手できるようしたほか、外国人観光客にも自分のWi-Fi端末が2週間利用可能となった。

なお、外国人は専用の「ID/PASSカード」が必要なことからオホーツク総合振興局からの交付を受け、ドライブ観光を楽しむ外国人観光客にも便利なエリアづくりをすすめたい。